

①高校生からのおすすめ本



<青春>～大切な今～

番号	書名	著者名	出版社名	キーワード	学校名	学年	紹介メッセージ
53	レインツリーの国	有川 浩	新潮社	恋愛、言葉の大切さ	玉野光南	3	私は、「レインツリーの国」という本を紹介します。この本を読んで、とても感動しました。聴覚障害者のひとみと健聴者の伸は、一冊の本がきっかけで出会います。ひとみは最初、障害がある事を隠していましたが、徐々に伸とぶつかり合う中で、障害がある事を隠さず、前向きに生きていこうと決心しました。この本を読む中で、言葉は人を傷つける事もあるけれど、時には前向きに人を変えることの出来る素敵なものだと感じました。是非読んでみてください。
54	きみの友だち	重松 清	新潮社	友情	清心女子	3	「本当の友だち」の意味って何だろう？私にはよくわからない。みなさんのともだちになるきっかけって何ですか？この本のなかで主人公はクラスの中心人物だったが、些細なことでみんなから無視されるようになる。そんな中で一人の女の子がうざいほど話しかけてくる。でもだんだんそれが心地よくなってくる。調子の良い時も悪い時もお互いを理解でき、それでも心の良いままでいられる人が「本当の友だち」なのではないかと思わせてくれる本です。
55	夜のピクニック	恩田 陸	新潮社	青春	岡山東商業	3	この本は歩行祭という学校行事を通して、友達と何気ない会話をしたり恋を叶えようとしたり壊れてしまった友人関係を修復しようとしたりします。必ず時間は過ぎて、今という時間はもう戻ってきません。高校生という多感な時期にこそ「夜のピクニック」という色々な青春が詰まった本を読んでほしいと考えました。きっと本を読み終わった後、青春できる今を大切にしたいと感じるはずですよ。
56	島はぼくらと	辻村 深月	講談社	青春	岡山東商業	3	瀬戸内海に浮かぶ小さな島を舞台にした物語です。ただ毎日を当たり前に過ごしてきた男女4人の高校生を中心に、いろいろな人々の葛藤や悩みが混ざり合っていて、人間のリアルを感じさせます。でもそれは、私たちの日常でも起こりえることであり、大切なことを思い出させてくれるお話です。瀬戸内海が舞台ということもあり、岡山を身近に感じられると思います。青春ならではの恋話もあり、高校生なら親近感がわくはずですよ。ぜひ読んでみてください。
57	でーれーガールズ	原田 マハ	祥伝社	青春	倉敷古城池	1	この本は主人公の人気マンガ家である鮎子が母校の創立記念講演に出演をお願いされるシーンから始まります。この話の舞台は岡山で、出演依頼を受けた鮎子が高校時代を振り返っていく中で、数々の岡山の名所が出てきます。話のほとんどは80年代と少し前の話ですが、私たちでも分かる岡山のお店や場所が出てくるので読んでいてもおもしろいです。学校での話、友達との思い出など私たち高校生にとっても身近な話だと思います。ぜひ読んでみてください。
58	妖怪アパートの幽雅な日常	香月 日輪	講談社	妖怪の世界からこの世を見つめる	倉敷青陵	2	稲葉夕士。高校生。普通に学校に通い普通に就職しようとしていた彼だが、妖怪アパートには人(たぶん人)や妖怪が住んでいる。夕士はそこに運命によって導かれた。毎晩高校から帰れば賭いさんが作ってくれた料理・酒を飲みながらバカ話や真剣な話をする魔術師や詩人や画家や古本屋達(住人)。普通とは何か、命とは何か、今とは…。貴方も彼らの言葉を聴きながら今の自分を見つめ直してみませんか？
59	桐島部活やめるってよ	朝井 リョウ	集英社	青春	清心女子	2	この物語は、男子バレー部のエースである桐島が「部活をやめる」前後の話を実数の同級生が語っていくという形で進んでいきます。学校における見えないヒエラルキーや高校生ならではの悩みも絡めて、それぞれのお話で主人公が成長して前に進む様子が描かれていて、高校生にとってはかなり共感できる部分のある作品だと思います。主人公である桐島が最後まで一度も出てこないという意外性もあり、他の作品との違いも楽しめる一冊です。
60	氷菓	米澤 穂信	KADOKAWA	青春	清心女子	2	「やらなくてもいいことはやらない、やらなければいけないことは手短かに」がモットーの男子高校生、折木奉太郎が同じ古典部で旧家のお嬢様、千反田えるの「私、気になります！」の一言によって、学校で起こった様々な謎と真実を解き明かしていく青春群像劇。鮮やかな情景の中で、主人公たちが自身の恋愛や対人関係、自己について悩む姿は、等身大の高校生そのもので共感できるシーンも多い作品です。
61	海の底	有川 浩	KADOKAWA	きりしお	倉敷古城池	1	『海の底』は作家有川浩さんの初期を代表する三部作の完結編です。また、同じシリーズの『空の中』に続き『海の底』も怪獣に一般市民が次々に襲われていくという話になります。その怪獣は「海の底」から来た巨大ザリガニの大群で、その大群から逃げ遅れた子どもたち13人は自衛隊により保護されます。しかし、退去する道は断たれており、やむなく子どもたちは潜水艦に連れて行きました。そして、この潜水艦に閉じ込められた13人の話が始まります。

62	5年3組リョウタ組	石田 衣良	KADOKAWA	熱血教師	倉敷天城	1	この作品は石田衣良の初めての新聞連載である。希望の丘小学校5年3組、通称リョウタ組。担任の中道良太は、茶髪にネックレスと外見は今どきだが、涙もろくてまっすぐで、丸ごと人にぶつかっていくことを厭わない25歳。いじめ、DV、パワハラに少年犯罪・・・教室の内外で起こる多数の問題にも。子どもと同じ目線で真正面から向き合おうと真摯にもがく、若き青年教師の姿を通して、教育現場の“今”を切りとった、みずみずしい青春小説。
63	ガレキノシタ	山下 貴光	実業之日本社	青春	倉敷商業	3	普段と何も変わらない、毎日同じ穏やかな日々が続く中で、ある日突然学校が崩壊した。瓦礫の下には生徒たちが取り残されている。いつ助けが来るかわからない極限状況の中で生徒たち一人ひとりが抱える問題がリアルに感じられます。物語が高校生の話だから共感できることが多いのでおすすめです。
64	くちびるに歌を	中田 永一	小学館	青春	玉野光南	3	学生時代に誰もが経験したことのある、何かに思いきり没頭したり、人間関係に悩んだり、誰かを好きになったりという様々な青春が詰まった本です。合唱に本気で取り組む生徒たちの姿にとても感動し、勇気をもらえます。読んだあとに必ず温かい気持ちになります。
65	レヴオリューション NO.3	金城 一紀	KADOKAWA	青春	倉敷天城	1	最近、ライトノベルにはまってしまった私は、この本を友人にすすめられて読みました。ライトノベルのファンタジーな感じとは違い、死んだような生活をしている男子高校生がナンパするという、しょうもない話でした。正直、私はおもしろいとは思いませんでした。しかし、思っていた以上に話が広がり、楽しく、感動できるものでした。